

令和6年度 栃木県立矢板東高等学校（全日制） 学校評価シート



教育目標 高い志を抱き、次代を力強く担うリーダーの育成

本年度の重点目標

- 1 深い教養、高い学力の育成
- 2 他者を思いやる心、社会貢献意欲の育成
- 3 心身の力強さと健やかさの育成
- 4 魅力ある学校づくりの推進

評価	
A 達成（満足）できた	・・・（80%以上）
B ほぼ達成（満足）できた	・・・（80%未満～50%）
C 十分とは言えない	・・・（50%未満～20%）
D 達成できなかった	・・・（20%未満）

学 校 自 己 評 価						学校関係者評価		
現 状 と 学 校 評 価 実 施 概 要					達 成 状 況 と 評 価		令和7年2月17日実施	
評価区分	本校の現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	方策の達成状況	部分評価	次年度への課題と改善策	評価、意見等
1	・生徒は真面目に授業に取り組むが、やや受動的である。生徒が主体的に授業に取り組めるように、授業の展開、ICT を駆使した手立て、ワークシート等を工夫して、魅力ある授業を行う。 ・多くの生徒は積極的に探究活動に取り組んでいる。内容をさらに深化させ、今後の学びにつなげさせるためにも、その成果を発表する校内外の機会を充実させる。	(1)教員の授業力の向上	①授業第一主義を実践するため、各教科において公開授業と授業研究会を積極的に実施する。絶えず授業改善に努め、学校全体での授業力向上を図る。 ②授業の目標を明確にするとともに、主体的・対話的で深い学びのある授業を実践し、生徒の知識・技能や思考力・判断力・表現力の向上を図る。	①教員アンケート結果分析、授業研究会分析 ②教員・生徒授業アンケート結果分析、授業研究会分析	肯定的回答が生徒 90%、教員 86%、保護者 78%であった。公開授業週間を利用し、授業研究を実施できた。 肯定的回答が、生徒 92%、教員 94%、保護者 87%であった。多くの教員が授業改善を意識し、実践できた。	B	・授業第一主義を実践するため、引き続き公開授業と授業研究会を実施し、授業力の向上に努める。 ・生徒の学習意欲を高めるために、アンケートや振り返りシートを用いて生徒の実態やニーズを把握し、授業の魅力化を図る。 ・探究活動を充実させるための支援や指導法の改善を行う。引き続き外部団体主催のコンテスト等への更なる挑戦を促す。	・現在話題となっているデジタル教科書の使用について。使うメリットがある教科とそうではない教科があると思うが、生徒が内容を理解する手助けとなる教材についてはしっかり対応してほしい。 ・外部団体コンテスト等への参加者が増えてきたことは素晴らしい。学校ホームページだけでなく、外部への周知方法をより工夫してほしい。
		(2)生徒の学習意欲と学力の向上	校内における「総合的な探究の時間」を充実させ、コンピテンシーの対課題基礎力を伸ばす。さらに、外部団体主催のセミナーやコンテストなどへの積極的な参加を促す。	教員・生徒授業アンケート結果分析、GST 分析、生徒の参加状況と活動内容の分析	生徒の 88%、教員の 89%が肯定的な回答。担当教員の効果的な指導により、外部団体コンテスト等への参加者が増えてきた。	A		
2	・生徒は概ね真面目で大人しいが、最近、生徒指導事案が増加傾向にある。社会に貢献する生徒の育成を目指した今までの充実した進路指導に加えて、他者を思いやる心の育成を意識した生徒指導を行う必要がある。	(1)中高一貫教育校のメリットを生かした教育活動の推進	学校行事等において、異年齢集団による活動が効果的に実施できるよう、準備、実施、振り返りの各場面で中高の連携をより推進する。	生徒の自己評価や学校評価アンケート結果分析	生徒の肯定的な回答が6割未満。中高一貫教育校のメリットを生かした教育活動が展開できていない。	B	・企画・運営方法を見直し、中高一貫教育校のメリットを生かした生徒の主体性を育む行事を実施する。 ・更なる進路指導の充実に努め、生徒の自己理解が進み、進路について自ら考える力が伸長するような指導を行う。	・保護者の学校評価アンケートで評価が低い項目があることに関しては、保護者が学校に魅力を感じられるように、保護者に伝えてほしい。
		(2)進路指導(キャリア教育)と生指導の充実	進路関係行事の確実な実施や適切な進路情報の提供など、進路指導のさらなる充実を図るとともに、教育活動全体を通して生徒指導の充実を図る。	生徒の自己評価や学校評価アンケート結果分析	肯定的回答が生徒 85%、教員 97%、保護者 83%であった。進路指導の充実は本校の強みである。	A		
3	・生徒は部活動などの特別活動に積極的に取り組んでいるが、自己肯定感があまり高くない生徒も見られる。自己肯定感を高めるために、より良い人間関係を築こうとする自主的・積極的な態度を育成する教育活動を展開する必要がある。 ・生徒の中には教育相談が必要な者も見られる。生徒一人ひとりに対して組織的に支援し、教育活動全体を通じて心身ともに健やかで活力にあふれる生徒の育成が求められる。	(1)部活動に関わる指導等の適正化と特別活動の活性化	①「部活動に係る活動方針」等に基づいた適正な部活動の運営を行うとともに、コンピテンシーの対人基礎力を高めるため、生徒の主体的・積極的な活動を推進する。 ②自己実現の視点でホームルーム活動や生徒会活動を充実させることで、生徒の心身の健やかさと活力を育む。	①部活動の活動状況の検証、生徒の参加状況と活動内容の分析 ②生徒の自己評価や学校評価アンケート結果分析	肯定的回答が生徒 80%、教員 86%、保護者 78%であった。各部の活動方針に沿って実施しているが、生徒の評価が若干低い。 肯定的回答が生徒 79%、教員 86%、保護者 83%。生徒の評価が若干低い。	B	・生徒の課題発見力や協働力が高められるよう、生徒が主体的・積極的に部活動等を運営できる体制づくりを行う。 ・より良い人間関係を構築しようとする態度を育成するために、生徒会活動やホームルーム活動の見直しや改善を行う。 ・居心地の良い学校環境をつくるためにも、引き続き複数回の個人面談をとおして生徒理解に努める。 ・いじめの未然防止のために、組織的なサポート体制を見直し、確立させる。	・PTA 組織で支部がなくなってから、保護者と教員が話し合う機会が少なくなったように思われる。 ・オリエンテーションなどの学校行事で PTA が担当する場面があるときはぜひ依頼してほしい。
		(2)生徒の健全な精神の育成	①居心地の良い学校環境づくりを一層推進するとともに、定期的な個人面談等をおして生徒理解に努める。	①教育相談の実施状況、スクールカウンセラーの活用状況	肯定的回答が生徒 89%、教員 97%、保護者 93%。個人面談をよく行っている。	A		
			②教育相談体制のさらなる充実を図り、いじめの未然防止や生徒の悩み等の早期発見・対応に努める。	②いじめ認知件数、学校評価アンケート結果分析	肯定的回答が生徒 81%、教員 92%、保護者 84%。教育相談体制が充実している。	B		

4	<p>・生徒・保護者の学校満足度は高く、教員は生徒と関わる時間を確保しているが、時間外勤務時間が少ない。職員一人ひとりが働き方改革を意識しながら教育活動を行う必要がある。</p> <p>・本校の魅力あふれる情報を積極的に発信するなど、広報活動を一層促進する必要がある。</p>	(1)教員の「働き方改革」の推進	①担当する業務について、見直しや改善を図り、業務を精選し効率化を図ることのできるようにする。	①超過勤務時間や年度末反省の検証	業務の見直しや改善を図っており、全体として超過勤務時間は減少している傾向にある。	B	<p>・超過勤務時間の削減に向けて、業務の見直しを更に進める。</p> <p>・円滑なコミュニケーションを図り、協働意識を高め、「チーム矢東」で業務に取り組む。</p> <p>・ホームページの充実を図り、保護者や地域に学校の魅力を発信する。</p> <p>・保護者や社会のニーズの把握に努め、適切な情報を提供する。</p>	<p>・「チーム矢東」として「真面目な雑談」をすることは素晴らしい。HR担任(副担任)は毎朝HRに行くが、教科担任と生徒の情報を共有するような雑談は生徒理解のためにもとても良いこと。</p> <p>・配付されている生徒のタブレットの使い勝手が悪いので、生徒のスマートフォンの使用なども再考してほしい。教員のICTスキルの向上が必要。</p>
			②「チーム矢東」の一員であることを意識させ、「真面目な雑談」を通して教職員間のコミュニケーションや協働を大切にす。	②教員アンケート結果分析	折に触れ「チーム矢東」の一員であることを意識させた。教職間のコミュニケーションは良好である。	B		
		(2)学校広報活動の充実と情報発信の促進	①内容の更新を適時行い、ホームページの充実を図り、学校の情報を保護者や地域社会に発信する。	①ホームページの更新・閲覧状況、アクセス数	肯定的回答が教員は86%であったが、生徒は68%、保護者78%であった。	B		
			②保護者や地域社会のニーズにあった情報を提供する。特に中学生を意識して、生徒視点の記事を掲載するなどその内容・方法等を工夫する。	②学校評価アンケート結果分析	生徒会役員生徒のブログを開始するなど学校ホームページの充実を図っている。	B		